2021 年度事業 進捗報告書（実行団体）

● 提　出　日　：　２０２１年 11 月 2 日
● 事　業　名　：　がん患者の就労移行と中小企業の両立支援
● 資金分配団体　：　公益財団法人日本対がん協会
● 実 行 団 体　：　特定非営利活動法人日本キャリア開発協会
● 新型コロナウイルス対応緊急支援助成（通常枠での追加助成）の有無　：　☑有　☐無

① **実績値**

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況 *
WEB サイト（がん患者が情報を得たり支援を受けるためのサイト）の構築	利用者数	WEB サイト完成後にモニターしていく（構築中）	2021 年度	2021 年 4 月～9 月 https://www.j-cda.jp/about/hatarakikata/ribora.php 平均 PV：252 回/月（最小 97 回/月、最大 504 回/月） 平均滞在時間：125 秒	2
両立支援を担当するキャリアカウンセラーの育成	講習実施数、受講者数	24 講習/年、400 人/年	各年度末	2021 年 4 月～9 月 https://www.j-cda.jp/seminar/consultant/seminar_review_kt04.php 技能講習（対象別キャリアコンサルティング）④キャリアコンサルタントに求められる仕事とがん治療の両立支援について 18 講習、受講者 353 人	1

がん患者プログラム（りぼら＝リハビリボランティア）の参加者数	①告知イベント参加者数、②りぼらプログラム実施数、③りぼらプログラム参加者数、	①150 人、②10 回、③60 人	2022 年度	2021 年 4 月～9 月（第 3・4 期実績/全 10 期） https://www.j-cda.jp/about/hatarakikata/ribora.php ① りぼら説明会参加人数：19 名 ② りぼらプログラム実施数：2 回 ③ りぼらプログラム参加者数：8 名	3

＊進捗状況：1 計画より進んでいる 、2 計画どおり進んでいる 、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
2.概ね達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目 ☑変更なし　☐短期アウトカムの内容　☐短期アウトカムの表現　☐短期アウトカムの指標　☐短期アウトカムの目標値
5. 新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
キャリアセミナー（グループワークショップ）、キャリアカウンセリング（個人面談）、しごと体験（リハビリ体験）のオンラインによる実施。

③ 広報

1. メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB 等）
   - 公益財団法人日本対がん協会がんサバイバー・クラブ（https://www.gsclub.jp/）にて本事業が紹介された。
   - Peer Ring（https://peer-ring.com/tags/日本キャリア開発協会）にて本事業が紹介された。
   - 一般社団法人がんと働く応援団「現役世代のためのがん防災マニュアル保存版」にて本事業が紹介された。添付資料①
   - JCDA ジャーナル 79 号（5 月 25 日・約 2 万部発行）にて本事業が紹介された。添付資料②
   - JCDA ジャーナル 80 号（8 月 10 日・約 2 万部発行）にて本事業が紹介された。添付資料③
   - JCDA ジャーナル 81 号（11 月 10 日・約 2 万部発行予定）にて本事業を紹介予定。添付資料④

2. 広報制作物等
   - 本事業紹介チラシ（印刷物）を制作した。：添付資料⑤
     文京区経済課経由で関係部署に 500 部、文京区社会福祉協議会のフミコムにて 100 部配架して頂いた。
     その他、ハローワーク、労働局、就労支援窓口等に配架して頂いた。
   - 本事業ロゴ入り名刺（印刷物）を制作した。：添付資料⑥

   - 2021 年 7 月 5 日　りぼらプログラムの参加者向け説明会を実施した。
     説明会告知チラシ（印刷物）を制作して配布： 添付資料⑦

5 月 25 日　文京区社会福祉協議会のフミコムメールマガジンにて告知（約 4,400 人）：添付資料⑧
6 月 22 日　がんサバイバー・クラブ　サバイバーカフェにてプログラムの紹介：　添付資料⑨ab

・2021 年 11 月 23 日　オンラインイベント「がんになった経験を社会に活かそう～自分のため・誰かのため～」
（共催：日本対がん協会 https://www.j-cda.jp/event-lp/20211123event/）
厚生労働省、文京区、社会福祉法人文京区社会福祉協議会による後援名義を取得：添付資料⑩abc
文京区経済課より、区内企業に向けてチラシ（印刷物）を郵送頂いた。（1,000 社）：添付資料⑪ab
文京区社会福祉協議会のフミコムメールマガジンにて告知（約 4,400 人）：添付資料⑫

3.報告書等

・2021 年 5 月 22 日　JCDA 全国両立支援推進メンバー会議にて本事業について説明：添付資料⑬
厚生労働省　労働基準局 安全衛生部　労働衛生課 治療と仕事の両立支援室　俵田 憲諭氏　陪席
・日本キャリア開発協会 HP のサイトから「りぼら誕生秘話①～③」の発信：添付資料⑭abc
（https://www.j-cda.jp/about/hatarakikata/ribora.php）
・JCDA2 万人達成記念大会（2021 年 10 月 16 日開催）での発信：添付資料⑮
（https://www.j-cda.jp/event-lp/2021/）厚生労働省　人材開発統括官　キャリア形成支援企画官　國分 一行氏　陪席

2019 年度事業 中間評価報告書（実行団体）

評価実施体制

内部／外部	評価担当分野	氏名（非公開）	所属団体・役職
内部	専門領域：心理学 アドバイザー		特定非営利活動法人日本キャリア開発協会 理事長
内部	専門領域：企業内キャリア形成 企業向けプログラムの評価指標・アンケート項目の作成		特定非営利活動法人日本キャリア開発協会 事務局長、キャリアカウンセラー
内部	専門領域：キャリア形成、病気の治療と仕事の両立支援 患者向けプログラムの評価指標・アンケート項目の作成		キャンサーキャリア　代表 特定非営利活動法人日本キャリア開発協会 両立支援推進プロジェクトリーダー、キャリアカウンセラー
内部	専門領域：キャリア形成、病気の治療と仕事の両立支援 アンケート調査の実施		特定非営利活動法人日本キャリア開発協会 両立支援推進プロジェクトマネージャー、キャリアカウンセラー
内部	専門領域：キャリア形成、産業・組織心理学、コミュニティ・アプローチ アドバイザー兼、評価指標、アンケート項目の監修		ユースキャリア研究所　代表 特定非営利活動法人日本キャリア開発協会　理事、キャリアカウンセラー
外部	専門領域：キャリア形成、産業・組織心		筑波大学　働く人への心理支援開発研究センター

	理学、臨床心理学 アドバイザー		准教授、キャリアカウンセラー
外部	専門領域：精神医学、精神腫瘍学 アドバイザー		国立研究開発法人 国立がん研究センター　精神腫瘍学開発分野長、医師
外部	専門領域：経営コンサルティング、メンタルヘルス アドバイザー		公益財団法人日本生産性本部　コンサルティング部長、経営コンサルタント

A）事業のアウトカムの進捗状況の評価

①　短期アウトカムの進捗状況

指標	目標値・状態	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・便益・改善状況
がん患者自身ががん患者プログラムへの参加によりキャリア観が変化する	①　がん患者プログラム参加者数、②プログラム参加者の意識・気持ちの変化の指標	2022 年度末	定量：母数が十分でないため、特徴的な傾向はまだ確認できていない。 定性：プログラム参加当初と修了時で、発言等に明らかな変化が生じている 例： 私なんかが→私のままでいい 憎しみ、悲しみの中にいる→前に進みたい自分がいることを発見し、立ち止まっていられないと思った こんな思いをしているのは自分だけと殻に籠っていた→自分だけではなかったことに気づいた。やっと抜け出せた 全く同じ境遇の人にしか話せない、分かってもらえないと思っていた→会ったこともないのに（オンラインのため）何で

			も話せて、受け入れてもらえる場があった 等々
中小企業で「りぼら」導入の成功モデルを作る	導入企業数	2022 年度末	・協力企業：1 社（株式会社松下産業） 下期は 11 月 23 日のイベント、および 12 月 3 日開催の説明会にて開拓を行っていく予定
自治体と連携した両立支援の取り組みモデルをつくる	事例数	2022 年度末	「文京区モデル」に向けての取り組み： 文京区による、主に広報活動の支援。 ・オンラインイベントへの後援名義 （厚生労働省、文京区、文京区社会福祉協議会） ・文京区社会福祉協議会のメーリングリストからのイベント案内（4,400 件） ・文京区経済課より区内企業に向けたダイレクトメールの発送（1,000 社） ・公益財団法人本郷法人会(文京区本郷 3-26-8 数寄屋ビル 2 階)へのイベント案内 ・Re なでしこ元町・よろず相談（文京区本郷 2-4-1 倉田ビル 101）へのイベント案内 ・文京区経済課へのチラシ配架依頼 ・文京区社会福祉協議会へのチラシ配架 ・文京区内の医療機関へのアプローチ 東京大学医学部附属病院、都立駒込病院ほか 患者支援窓口へのチラシの配架依頼
「りぼら」モデルの受け入れ先が企業以外	受け入れ先の分野数、事業者数、地域など	長期	・全国両立支援推進連絡会議（各都道府県の労働局主催）における関係機関への情報発信

に拡大する、家族やその他の働くことが困難な人への支援に水平展開する（長期）			・当協会会員（キャリアカウンセラー有資格者）2 万人への情報発信 ・一般社団法人 社会的健康戦略研究所（東京都江東区木場 1-5-1　R&D 棟 1F）への情報発信 ・公益財団法人東京しごと財団（東京都千代田区飯田橋 3-10-3）への情報発信

②　アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察

事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には ☐　短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある ☐　短期アウトカムの目標値の達成の見込みがある	がん患者のキャリア観が変化し、就労移行につなげていくためのリハビリの手法やプロセスはほぼ確立出来ているため、患者向けプログラムの展開は概ね達成できる見込みがあると言える。また、がん患者への広報や周知は、行政や医療機関、患者支援団体とのネットワーキングで徐々に増やしていくことが可能だと

☑ 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある ☐ 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である ☐ 短期アウトカムの目標値の達成は難しい と自己評価する	見通している。 一方で、文京区内の企業を始め、企業に展開していく事業計画には課題が残る。企業に対して、CSR や ESG 投資の観点からアプローチするのか、BCP の一環としてのリスクヘッジや、健康経営促進による生産性向上をうたうのか。中小企業が直面している喫緊の経営課題（人材の確保や離職防止等）と、がん患者の就労移行支援をつなげることは不可能ではないが、当事者意識を確実に醸成するための手法がまだ曖昧で確立していない。それが、助成金終了後の本事業の自走計画にも影響が出ている。本事業は社会福祉的な観点で公益法人が実施すべき事業なのか、収益事業として企業に展開できるビジネスモデルなのか、現時点では絞り切れていない。

B）事業の改善状況の評価

①　事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の適切性	アウトプット「WEB サイト（がん患者が情報を得たり支援を受けるためのサイト）の構築」で、訪問者数の増加につながった貢献要因は何か。	日本対がん協会のがんサバイバークラブの登録者へのメール配信と思われる。	＜調査結果＞ 4 月 8 日、6 月 8 日の 2 回、日本対がん協会からのメールマガジンで、説明会の開催情報を配信していただいた。4 月の発信が、4 月 24 日の第 3 期りぼらプログラムの説明会の参加につながり、6 月 8 日当日は 1 日だけで延べ 50 人以上、月間で延べ 500 名以上のりぼらプログラムのサイトへの訪問者があった。 ＜考察＞ がん患者やご家族向けの情報発信がサイトの訪問者数の増加に効果的であることがわかった。りぼらプログラムを必要としている方々への発信先として、患者支援団体ほか、どのようなグループがいいのか、適切な発信先の発掘が重要である。一方で、広報の効果でプログラムへの申し込みが殺到して、参加をお断りする事態が発生することも問題である。りぼらプログラムは、ファシリテーター2 名で 1 グループあたりの参加者定員が 6 名であるため、きめ細かな支援のためには大人数の対応は出来ない。実施側のキャパシティに応じた支援体制と広報のバランスをどうとるかが課題である。
実施をとおした活動の改善、 知見の共有	アウトプット「がん患者プログラム（りぼら＝リハビリボランティア）の参加者数」における、コロナ禍でのプログラム参加者の	テレワークによるオンラインしごと体験のニーズが強い。	＜調査結果＞ 新型コロナウイルス感染拡大状況にあっても、りぼらプログラムの参加者数がほぼ予定通り確保できたのは、プログラムをすべてオンラインで実施したことが大きいと言える。リハビリにつながるしごと体験も、協力企業に対してテレワークで実施できる業務の切り出しを支援し、適切な内容の業務を確保することが出来た。

	しごと体験におけるニーズは何か		＜考察＞ がんの治療が一段落して仕事への復帰を検討している方であっても、通勤による体力消耗やウィルス感染への不安は大きいと思われる。自宅から参加し、休息を取りやすい体制を確保しながらリハビリをすることは非常に大切である。自宅からキャリアセミナーやしごと体験へ参加することによって、安心・安全な環境で自分の体調や体力の状況を確認できることが、自己効力感の向上にもつながり、次のステップに進みやすくなる。コロナが収束してもオンライン環境による実施は継続するべきであると評価している。
組織基盤強化・環境整備			

② 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

短期アウトカム：プログラム参加前～修了の before～after での参加者の変化

・こんな思いをしているのは自分だけと殻に籠っていた→自分だけではなかったことに気づいた。暗闇からやっと抜け出せた

・自分の嫌な部分を受け入れられずにいた、がんになった自分を卑下していた→ありのままの自分、がんになった自分を受け入れられるようになった

・全く同じ境遇の人にしか話せない、分かってもらえないと思っていた→会ったこともないし、家族でも友達でもないのに、何でも話せて、受け入れてもらえる安心安全の場があった

要因：

・体調や参加目的などを事前面談で確認し、オリエンテーションという丁寧に段階を踏んだマインドセットを行いかつ信頼関係を温めた上でプログラムをスタートさせた

・セミナーでは、安心安全な場づくりを重要視して、対話中心のキャリアセミナーを提供した
・セミナー、キャリアカウンセリング、運営面でのやり取りすべてを、専門家（キャリアカウンセラー）として関ることで、モノの見方、捉え方の成長を促した

③　事前評価時には想定していなかった成果

・当初、対面でのセミナーを想定していたが、コロナの影響で全面的にオンライン開催となった事で、結果的に地方からの参加者を受け入れることが出来た（新潟、大阪、京都、愛知など）
・当初、現場でのしごと体験も想定していたが、コロナの影響で、しごと体験をすべてオンラインとし、テレワークを行った。そこで、しごと体験週の参加メンバー間の一体感、相互サポートの雰囲気醸成のために、コミュニケーションツールとして Slack を導入。下記の工夫により、チャットでリアルタイムのコミュニケーションが自然にやり取りされ、バーチャルチームとして一体感＆相互サポートが生まれ、結果として仕事への取り組み姿勢やマインドなどに相乗効果が得られた。また、相互にアドバイスを求め合うなど成果物への好影響も得ることが出来た。

【工夫】
・プログラムスタート時からスタッフとのやり取りを Slack で取ることで慣れてもらった
・セミナーにて、安心安全の場、自己開示しやすい（したくなる）雰囲気づくり

④　事業計画の改善の必要性の確認

- ☑ 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- ☑ 受益者や事業対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- ☐ 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇛アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- ☑ 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている

☐　短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている

事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために ☐　事業計画は適切に改善されたといえる ☐　事業計画を適切に改善する見込みがある ☑　事業計画の改善について、課題が残っていると自己評価する	事業計画の改善について、患者向けプログラムは計画通りの実施数が出来るかどうかで、特に計画に変更はない。 一方で、「中小企業でりぼら導入の成功モデルを作る」について、成功モデルを作ることが普及につながるのかが曖昧である。また、何をもって「成功」とするのか、企業向けの評価項目のブラッシュアップが必要である。 中間報告以降は、文京区とも継続的に対話をし、より踏み込んだ広報や取り組みを共に展開したい。 （取り組み例） ・区報ぶんきょう（町会・自治会による区内全戸配付）の「がん特集」で、りぼらプログラムの紹介を行う ・文京区が実施するイベントで、区民向けの無料キャリアカウンセリングの実施 ・文京区内の企業で、病気の治療と仕事の両立支援を推進している企業を表彰する表彰制度を創る ・東京商工会議所文京支部との共同イベントを開催する ・文京区における「がん対策推進条例」の制定を再度提案する （参考） 文京区議の品田ひでこ氏が、平成 29 年 9 月の定例議会の

	一般質問要旨にて、「健康都市宣言」と「がん対策推進条例」制定で 戦略的な取組を提案。 https://www.city.bunkyo.lg.jp/kugikai/nittei/yousi/yousi2909.html